



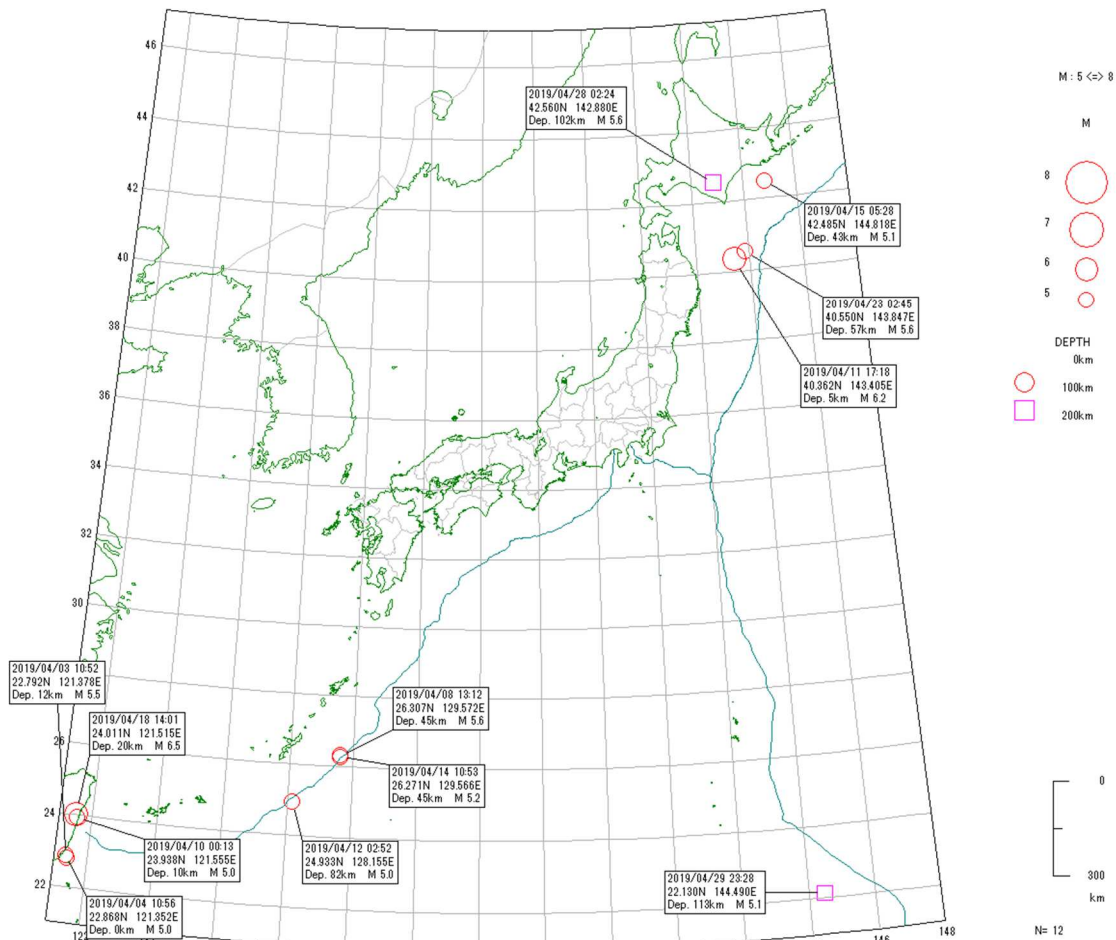
2019年4月の地震活動概観

この2ヶ月、日本列島およびその周辺地域では、地震活動が少し変化、活発化しているようです。3月は南海トラフ沿いおよび本州東方の太平洋プレートの沈み込みに関連する地震活動が活発化していました（4月8日付けのニュースレターを参考にしてください）。

4月は南海トラフでもさらに南方で活発化し、4月18日には台湾でも被害地震が発生しました。

昨年は9月に北海道・胆振東部の地震が発生しました。それ以外は6月の大阪北部地震がありましたが、日本列島全体としては基本的に地震活動が低調な状態が続いていました。今後地震活動活性化が予想される状況に変化してきたのかもしれませんが。

2019 4/1 00 -- 2019 4/30 23:59



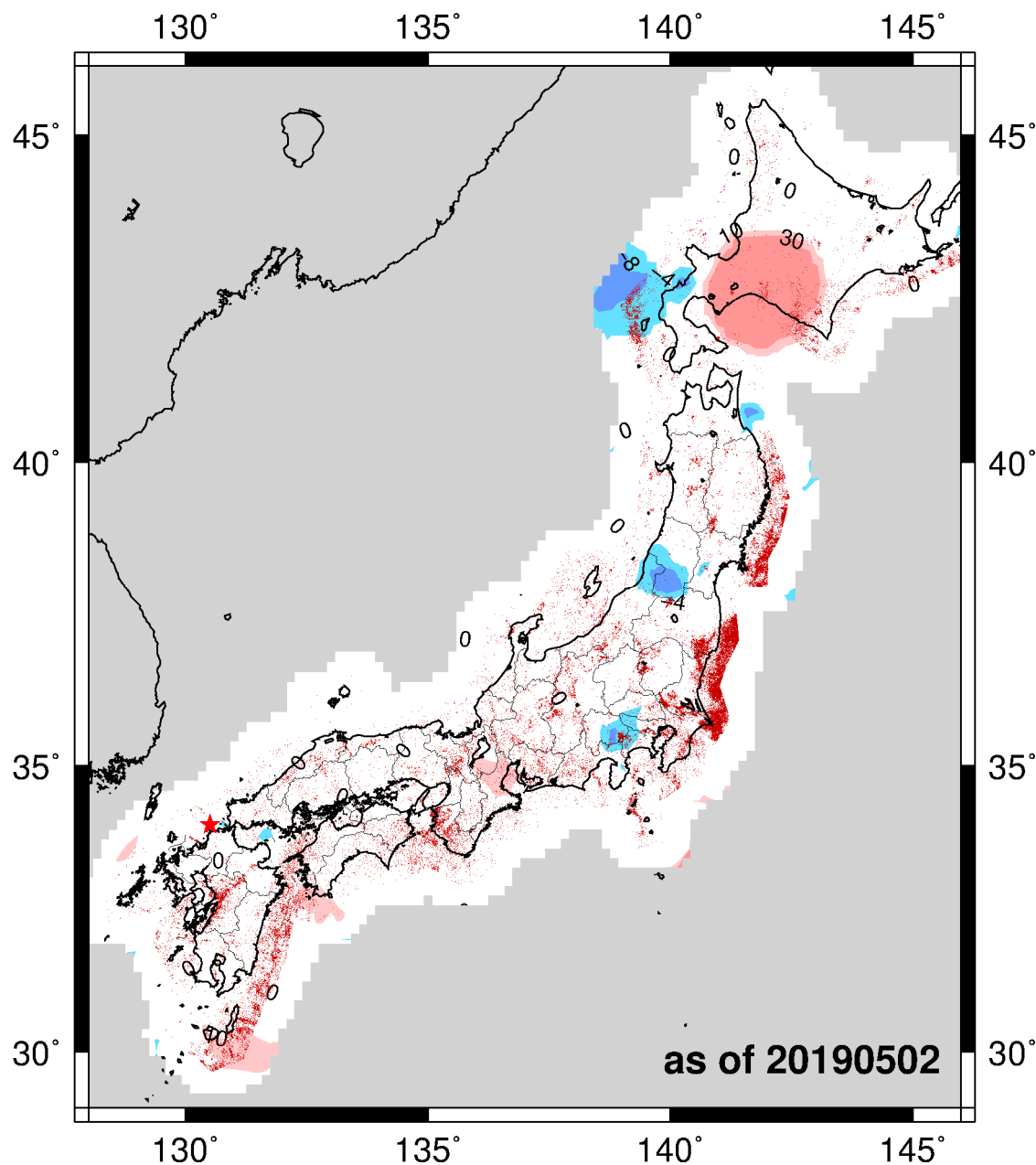
2019年4月に発生したマグニチュード5以上の地震(12個)



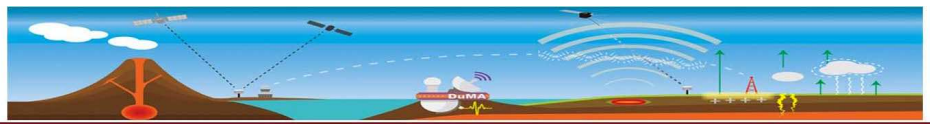
日本列島陸域の地下天気図®

3月25日のニュースレターに引き続き、日本列島陸域に特化した地下天気図解析です。前回と同様、MタイプもLタイプもほとんど同じパターンを示していますので、今週はMタイプをお示しします。

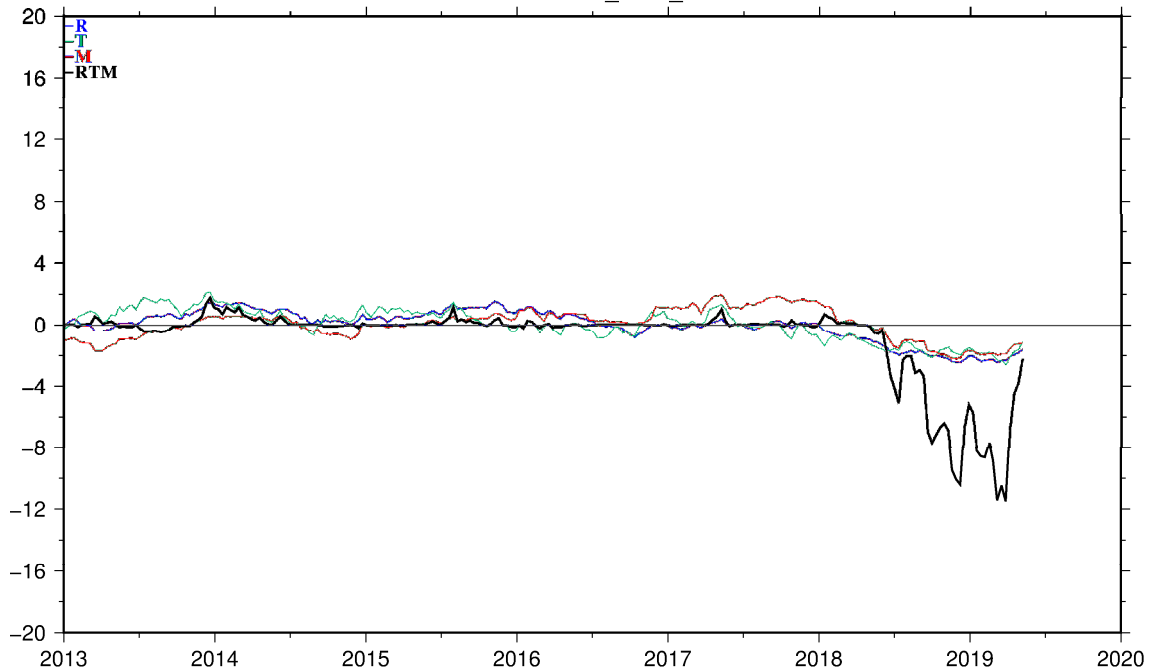
今回の地下天気図解析では、大きな変化があったと考えています。これまで継続的に報告させて頂いていた九州北方海域(中国地方西方)の異常がLタイプでもMタイプでも消失した状況になりました。次にお示しする地下天気図は5月2日時点のものです。



また★で示した地点(北緯 34 度、東経 130.5 度)の RTM 曲線の時間変化を次にお示しします。まだ完全に静穏化は終了していませんが、消長を繰り返しながら、静穏化の解消に向かっている事がわかります。



off-FukuokaL_1305_340



北緯 34 度、東経 130.5 度におけるRTM時間変化曲線

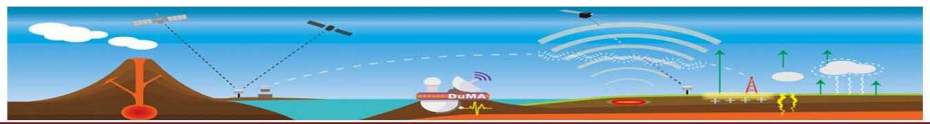
この九州北部(海域を含む領域)は、他の古典的な地震学的な解析でも、「地震発生の準備が整っている可能性が高い」事がわかっております。ちなみにこの地域には以下のような活断層が確認されております。



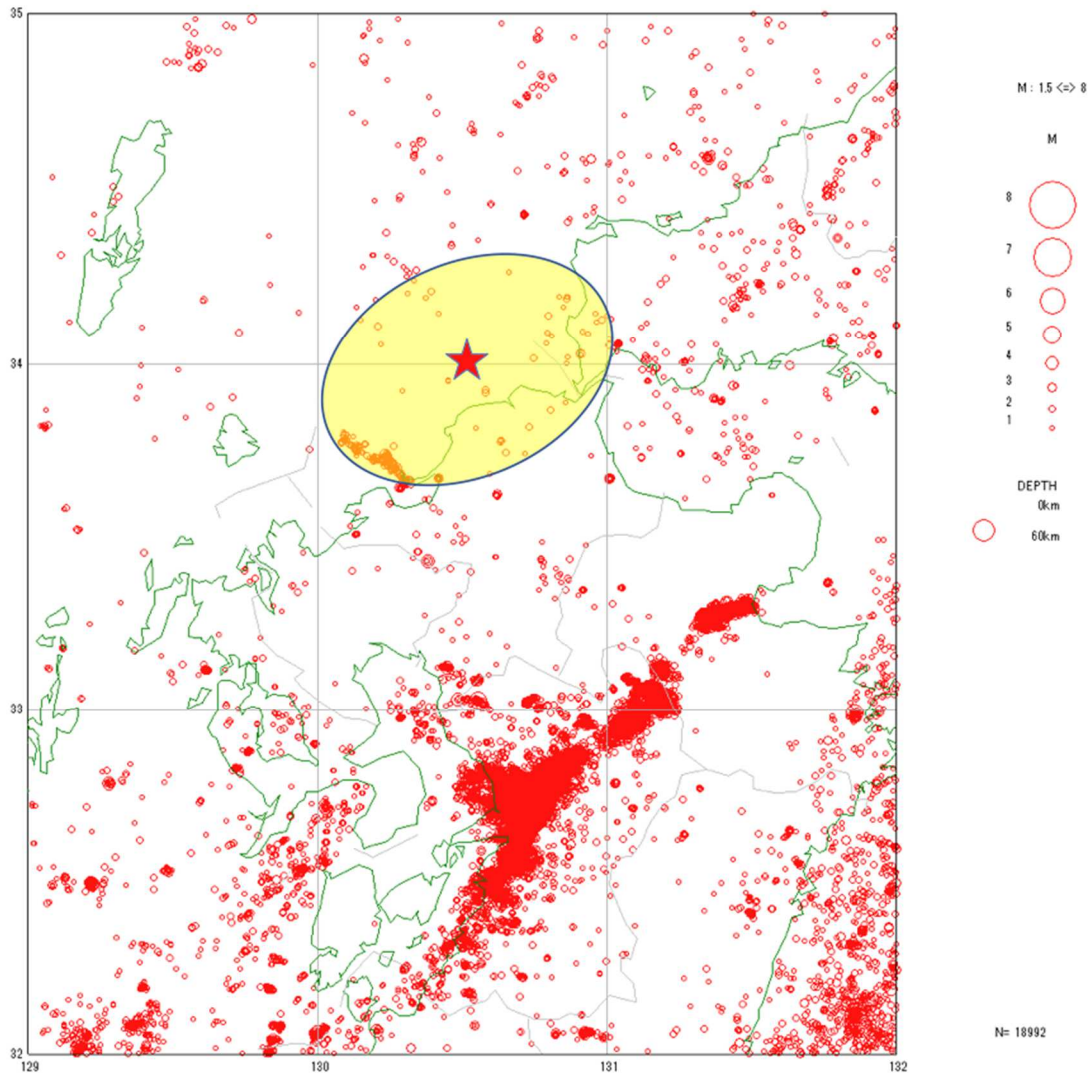
政府・地震調査委員会 (平成25年) 公表データ

今後、我々としまして、十分注視していきたいと考えています。

次のページにお示しする図は、今後 M6.5 ないしそれを超える規模の地震が今後1年以内に発生する可能性が地下天気図解析からは高いと推定される地域を示したものです。



2012 1/1 00 -- 2019 5/2 2359



地下天気図解析から今後比較的規模の大きな地震発生の可能性が高い領域

★が RTM 曲線の時間変化を計算した地点